

「東郷学園義務教育学校の南瀬地区の太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学生・人数

5年生～7年生 計29人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年9月～10月ふるさと・コミュニケーション科（本校交流スペース他）
令和4年11月2日（水）学園祭りハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年11月4日（金）東郷学園義務教育学校学園祭（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

南瀬太鼓踊り（のうぜたいこおどり）

(2) 由来

約450年前から始まった踊りで、作物が育つことや雨が降ってほしいという意味が込められている。鐘を鳴らすのは、虫を近づけないようにするためである。

(3) 構成等

小太鼓、1番かね、2番かね、1番太鼓が約32人で太鼓や鐘を鳴らす。下方限・上方限の2種類があり、下方限は戦の前に踊り、上方限は戦の後に踊る種類である。

5 保存会や地域との連携の具体

5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習の一つとして位置付けており、毎年、保存会の方々に指導をいただいている。コロナ禍以前は、南瀬地区の地域振興大会で、保存会の方々が、この太鼓踊りを披露してくださっていた。保存会の存続も厳しい状況にあるが、来年度以降も児童生徒への指導を依頼しているところである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

南瀬地区の伝統芸能については、5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、地域の方々から踊りの由来や意味について学習している。今年度は学園祭りハーサルで、学習した児童生徒が指導していただいた地域の方々を招待し、踊りを披露した。地域の方々には「これまでで一番の出来」ととても喜んでいただいた。この伝承芸能については、児童生徒もその勇壮さやすばらしさを体感している。

東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、地域に貢献していこうとする心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



体育館での練習風景



学園祭での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

太鼓も鐘も重くて、とても力が必要でした。たたくタイミングを覚えるのも大変でしたが、しっかり発表出来てよかったです。地域の方々が受け継いで来られている芸能を少しでも覚えていきたいと思いました。

【教職員】

南瀬地区に継承されてきた伝統芸能を引き継ぐことは、地域とともにある学校として大切な学習と捉えている。子どもたちにとってもたいへんいい経験になっていると感じている。

【保護者から】

立派に郷土の伝承芸能を踊る子供たちに感動した。とてもいい経験ができてよかったと思う。

【地域・保存会の方から】

各自治会・保存会の発表ができてよかった。保存会の構成が年々、高齢化してきているので、活動を存続させるのも困難な状況である。子供たち、若い人たちに、南瀬地区の伝統芸能を受け継いでほしい。